

## 芳賀の史跡めぐり

-14-

### 角田金五郎の生誕地

日本を代表する民間の菌類蘚苔(きんるいせんたい)、コケ類の学者が小坂子町生まれの角田金五郎です。

したが、当時はコケ類に関する参考書などなく、採集した標本の鑑定依頼もままならなかったようです。

金五郎は江戸末期の安政五年に小坂子村で生まれました。小さいときから寺子屋等で学び、二十代から当時の嶺赤城小学校、鳥取村善勝寺小学校(今の芳賀小学校)の教師となり、明治四十一年までおよそ三十年勤めました。明治四十二年には芳賀村の助役、その後村議も務めました。

コケ類の研究は早くから志し、教師として勤める余暇を採集に没頭しました。教師退職後に本格的な採集・研究に入りま

転機は明治四十三年に仙台の安田篤理学士を通じて、ドイツのザール博士に鑑定を依頼したこと。博士から追加で標本を送るように指示され、30種の標本を送ったところ、大正二年になり命名通知が届きました。この中には金五郎が赤城・鍋割山で採集した岩石着生のコケが「ナベワリゴケ(学名ナベワリエンス)」と命名されたほか、「コノハゴケ」、「ユキノハナ」、「アワイボゴケ」などの和名が付けられたものがありま

した。

さらに世界的権威のフインランドのワイニオ博士にも新品種と思われる標本を多数送ったところ、数十種の新種の発見となりました。金五郎は一千点を超える標本を送ったとされています。また採取した数は一万数千点といわれています。生涯を通じて発見した新種は百種以上、世界の学会に発表された品種は二百種以上です。

金五郎の採取範囲は関東一円から東北・四国に



学術功労之碑



生誕地の標柱看板

も及びました。昭和九年

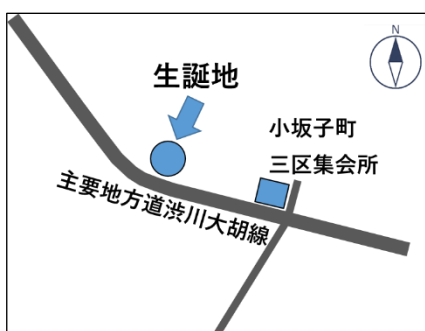
には昭和天皇が群馬県に  
来た際に単独拝謁し、自  
ら採取したコケ類の説明  
もしています。昭和十八  
年に八十六歳で亡くなり

ました。

彼の残した五千点を超える研究資料・標本などは前橋市に寄託されていますが、今でも小坂子の生家には彼が独学で学んだというドイツ語が記された標本が多数保存されています。また敷地には昭和十五年に有志によって建てられた「学術功労之碑」が建っています。

生涯学習奨励員

小見 耕一



所在地

### 1月の主な行事予定

1月4日(土)子育て連上毛かるた大会(芳賀公民館和室)  
1月6日(月)芳賀公民館仕事始め

